

平成 25 年度 調剤医療費と後発医薬品の使用状況に関する調査

平成 27 年 3 月

IT 推進部データ分析推進グループ

調査の概要及び対象データ

本調査分析は、対象となった 609 組合(本人:661 万 4,077 人、家族:552 万 9,090 人)の調剤レセプト(電算処理分)をもとに、調剤医療費の動向と後発医薬品の使用状況についてとりまとめたものです。

本稿による統計数値は、全組合の集計ではなく、対象組合数が限定されており、必ずしも組合全体を正確に反映したものでなく、若干、偏りが生じている可能性があることにご留意ください。

(なお、75 歳以上の加入者は原則、後期高齢者医療制度の適用対象者のため統計上存在しないはずですが、①診療年月日を診療年月の月末として計算しており、75 歳の誕生日を迎える月で、誕生日前に診療を受けた場合には年齢が 75 歳となるため、75 歳以上に計上しているほか、②外国に住所を有する 75 歳以上の加入者についても 75 歳以上に計上しています。)

年度	平成 25 年度
対象者数(加入者数)	1,214 万 3,167 人
調剤レセプト件数(電算処理分)	4,006 万 8,713 件
金額	3,269 億 3,890 万 9,860 円

調査実施結果のポイント

—後発医薬品の使用割合:数量ベースで約 44%、金額ベースで約 26%—

- ① 1 人当たり調剤医療費は合計:2 万 6,924 円で、本人・家族別にみると、本人:2 万 6,356 円、家族:2 万 7,603 円と、家族がやや高い (p.2)。
- ② 年齢階層別の 1 人当たり調剤医療費は高齢者層で高い傾向にある (p.2、p.3)。
- ③ 技術料を含めた調剤医療費のうち、後発医薬品使用率の算定対象となる医薬品は全体の 30.18%で、その内訳は、先発医薬品が 22.36%、後発医薬品が 7.83%となっている (p.5)。
- ④ 後発医薬品の使用割合を数量・金額ベース別にみると、数量ベースでは 43.78%、金額ベースでは 25.93%となっている (p.6)。
- ⑤ また、本人・家族別にみると、数量ベースでは本人:47.81%、家族:39.22%、金額ベースでは本人:29.42%、家族:21.94%と、いずれも本人のほうが高い割合となっている (p.8、p.10)。
- ⑥ 都道府県別にみると、数量ベースでは沖縄県:58.37%、金額ベースでは岩手県:33.54%が最も高い (p.11、p.12)。

1. 1人当たり調剤医療費及び医療費 3要素

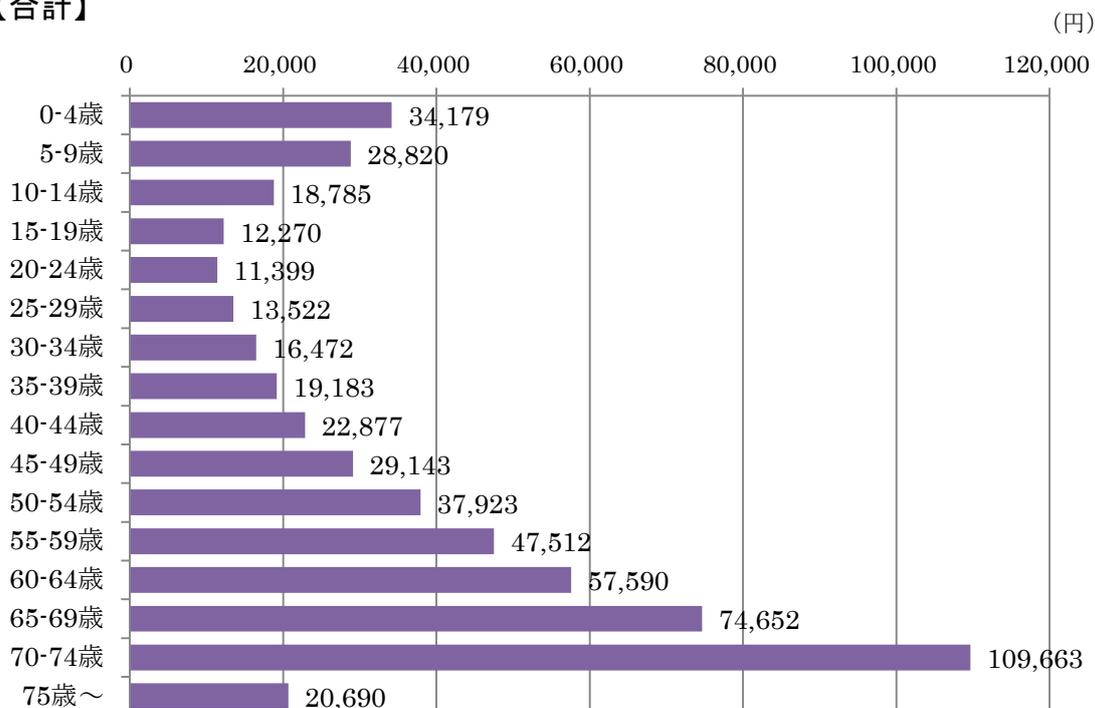
- 1人当たり調剤医療費(合計)は2万6,924円で、本人・家族別にみると、本人:2万6,356円、家族:2万7,603円と、家族がやや高い。
- また、受診率、1件当たり回数は家族のほうが高く、1回当たり調剤医療費は、本人:7,722円、家族:5,557円と、本人が高くなっている。

区分	1人当たり 調剤医療費	受診率 (千人当たり)	1回当たり 調剤医療費	1件当たり 回数
合計	26,924円	3,299.6922	6,534円	1.25回
本人	26,356円	2,873.6530	7,722円	1.19回
家族	27,603円	3,809.3341	5,557円	1.30回

2. 年齢階層別 1人当たり調剤医療費

- 年齢階層別の1人当たり調剤医療費(合計)をみると、0-4歳、5-9歳で比較的高い数字を示しているほか、とくに①70-74歳:10万9,663円が最も高く、次いで、②65-69歳:7万4,652円、③60-64歳:5万7,590円となっている。
- 本人・家族別(p.3)にみると、本人・家族ともに①70-74歳、②65-69歳、③60-64歳の順に高く、また、家族では0-4歳、5-9歳で比較的高い傾向が示されている。

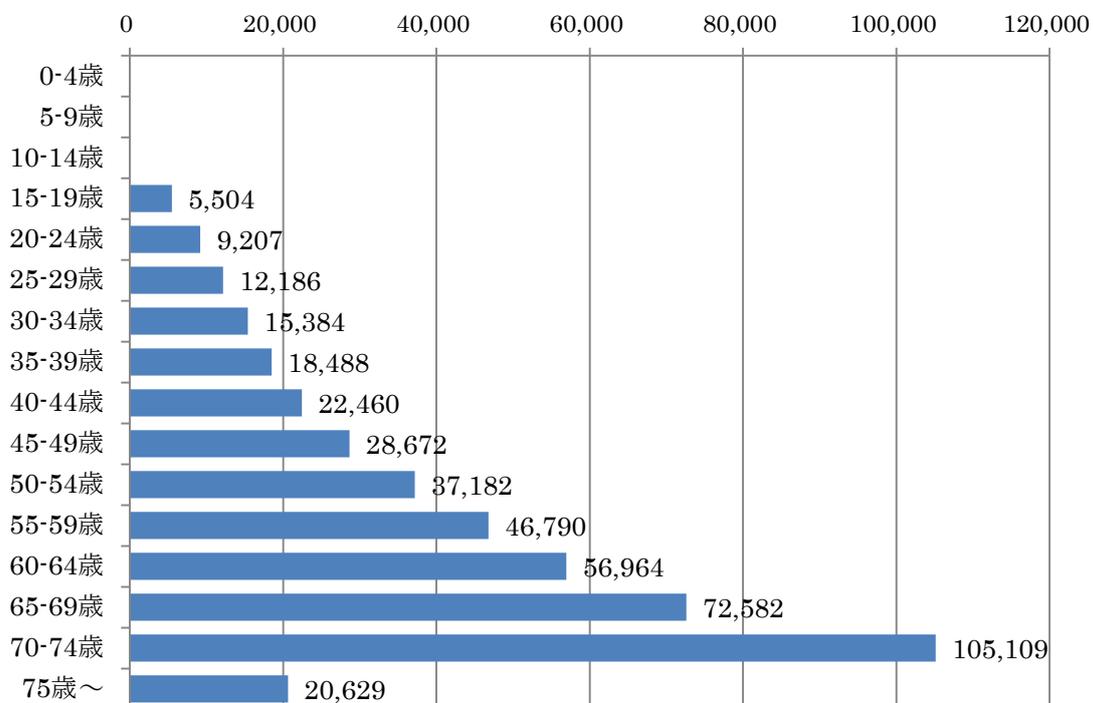
【合計】



【本人】

年齢階層別 1人当たり調剤医療費

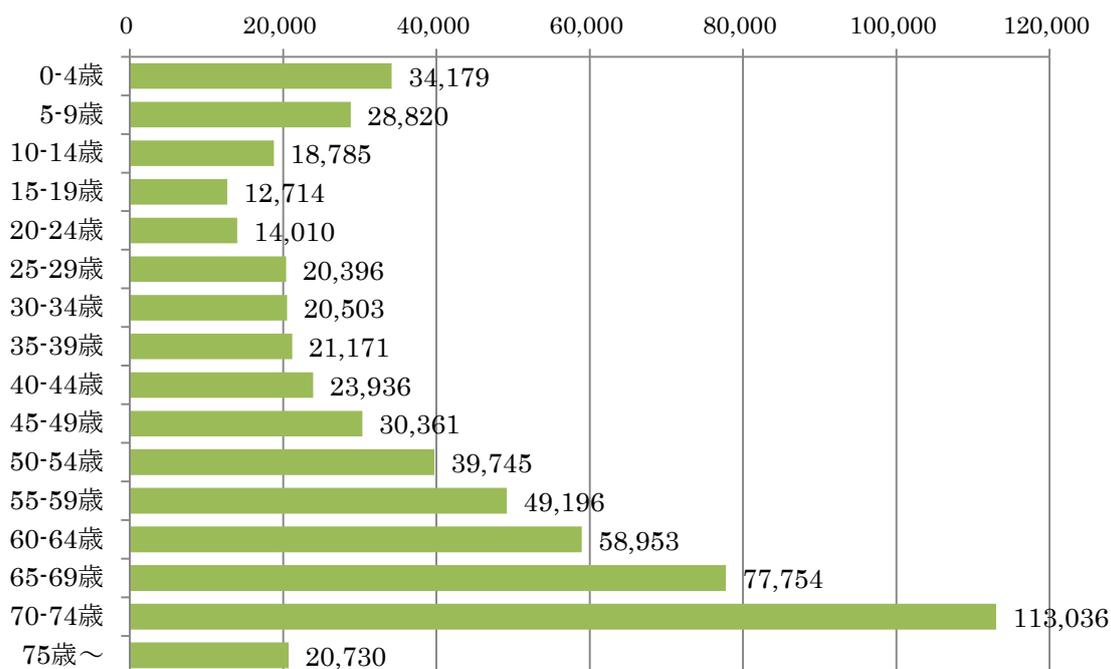
(円)



【家族】

年齢階層別 1人当たり調剤医療費

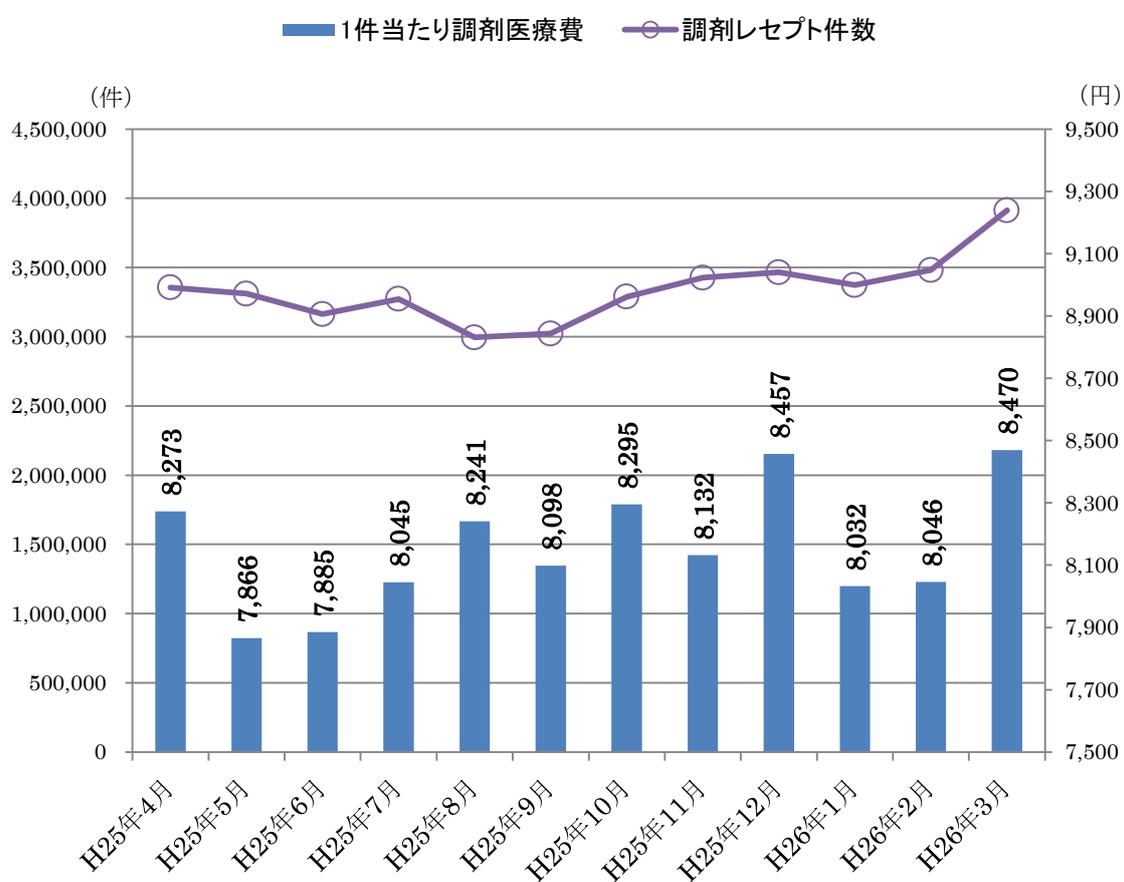
(円)



3. 調剤レセプト件数及び1件当たり調剤医療費の月別推移

- 調剤レセプト件数と1件当たり調剤医療費の月別推移をみると、調剤レセプト件数は、①3月が最も高く、次いで、②2月、③12月の順となっている。
- また、1件当たり調剤医療費では、①3月：8,470円、②12月：8,457円、③10月：8,295円の順に高い。

調剤レセプト件数及び1件当たり調剤医療費の月別推移



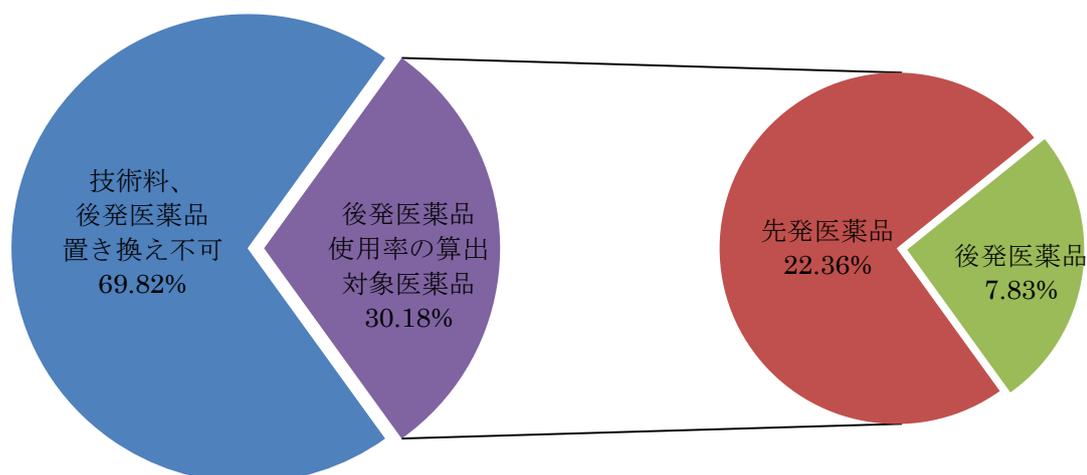
4. 調剤レセプト件数からみた後発医薬品の普及状況

- 調剤レセプト件数のうち、後発医薬品の処方されたレセプト件数は、全体の約50%を占めている。

	調剤レセプト件数	後発医薬品が処方されたレセプト件数	割合
全体	40,068,713 件	21,377,012 件	53.35%
本人	19,006,562 件	10,250,166 件	53.93%
家族	21,062,151 件	11,126,846 件	52.83%

5. 調剤医療費の構成と後発医薬品の割合

- 技術料を含めた調剤医療費全体(609 組合:約 3,269 億円)のうち、後発医薬品使用率の算定対象となる医薬品は全体の 30.18%(約 987 億円)を占め、その内訳は、先発医薬品が 22.36%(約 731 億円)、後発医薬品が 7.83%(約 256 億円)となっている。



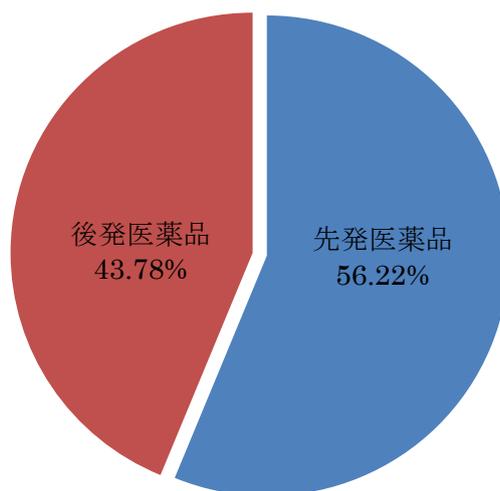
※後発医薬品置き換え不可は、主に後発医薬品のない先発医薬品である。

※端数処理の関係上、合計が必ずしも一致しない。

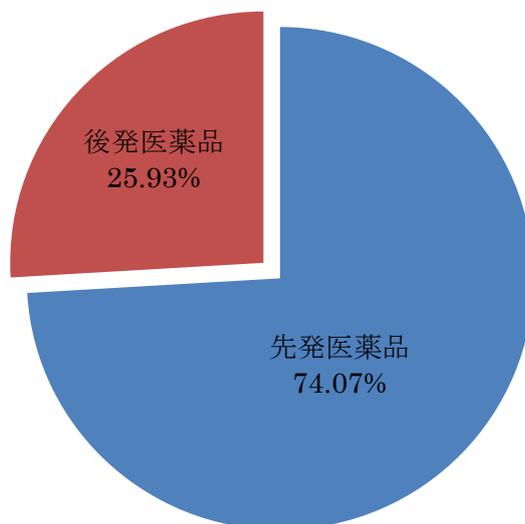
6. 後発医薬品の使用割合¹

- 後発医薬品の使用割合について、数量・金額ベース別²にみると、数量ベースでは、先発医薬品:56.22%に対して後発医薬品は 43.78%となっており、金額ベースでは、先発医薬品:74.07%に対して後発医薬品は 25.93%となっている。

薬剤総使用量に占める後発医薬品の使用割合(数量ベース)



薬剤料に占める後発医薬品の使用割合(金額ベース)



¹ 後発医薬品使用割合の算出にあたっては、以下の医薬品を除いたものを対象としている。
後発医薬品のない先発医薬品、経腸成分栄養剤、特殊ミルク製剤、生薬・漢方製剤・その他の生薬及び漢方処方に基づく医薬品

² 集計対象は、p.5「後発医薬品使用率の算定対象医薬品(30.18%)」である。

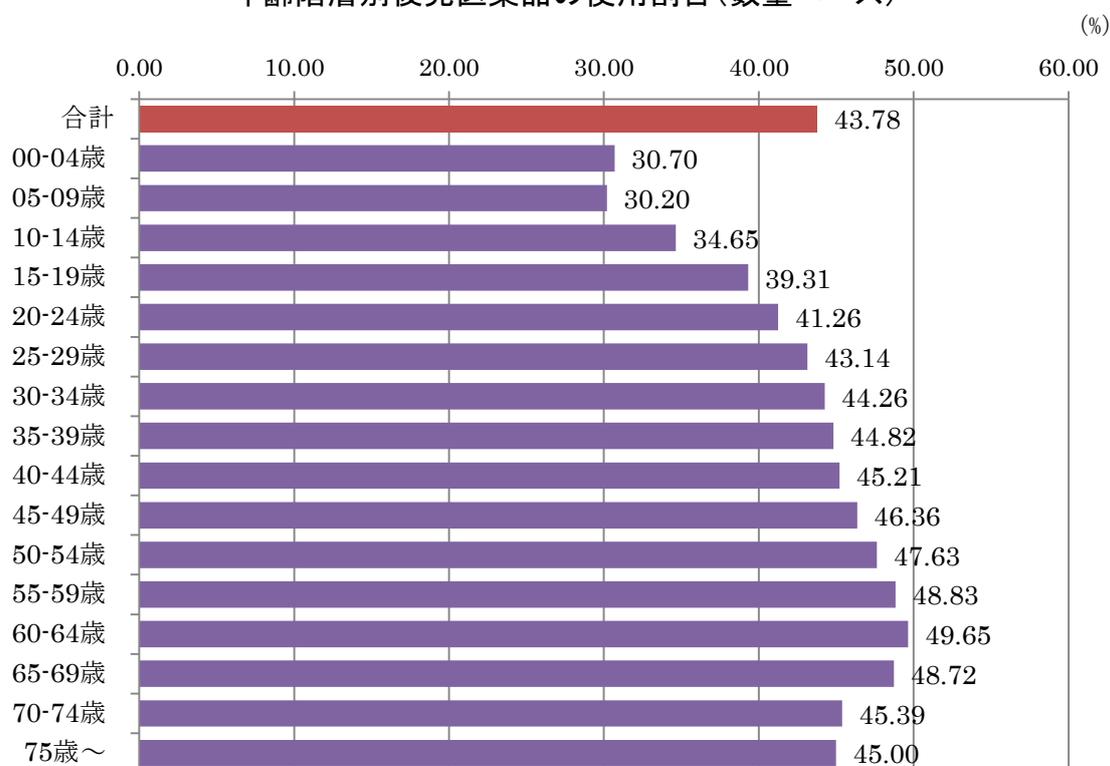
7. 年齢階層別にみた後発医薬品の使用割合

(1) 数量ベース

- 年齢階層別に数量ベースの使用割合をみると、合計：43.78%に対して最も高い割合を示しているのは、①60-64 歳：49.65%で、次いで、②55-59 歳：48.83%、③65-69 歳：48.72%となっている。
- 本人・家族別(p.8)では、本人・合計：47.81%、家族・合計：39.22%と、本人のほうが高く、本人では 60-64 歳：51.81%、家族では 65-69 歳：45.49%が最も高い。

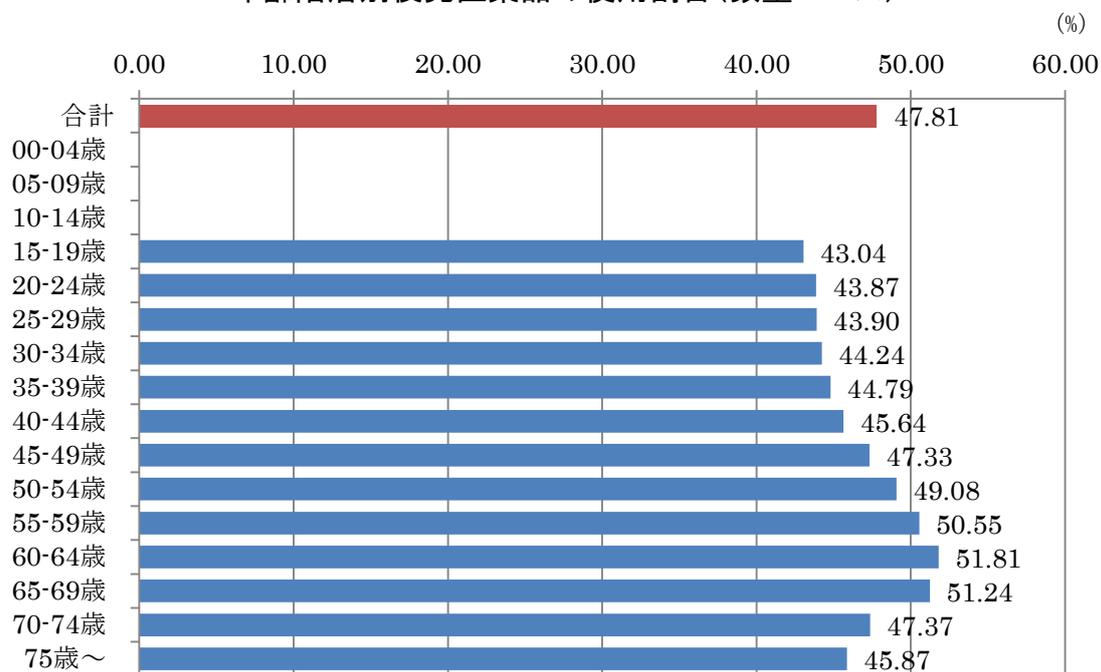
【合計】

年齢階層別後発医薬品の使用割合(数量ベース)



【本人】

年齢階層別後発医薬品の使用割合(数量ベース)



【家族】

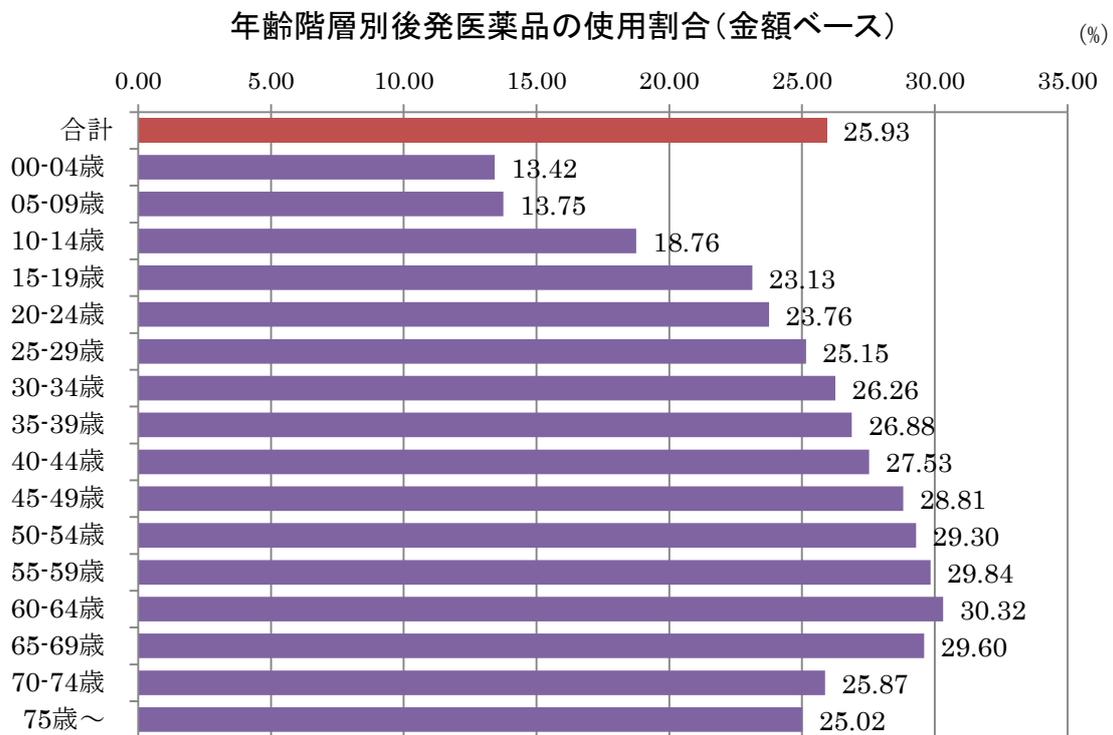
年齢階層別後発医薬品の使用割合(数量ベース)



(2)金額ベース

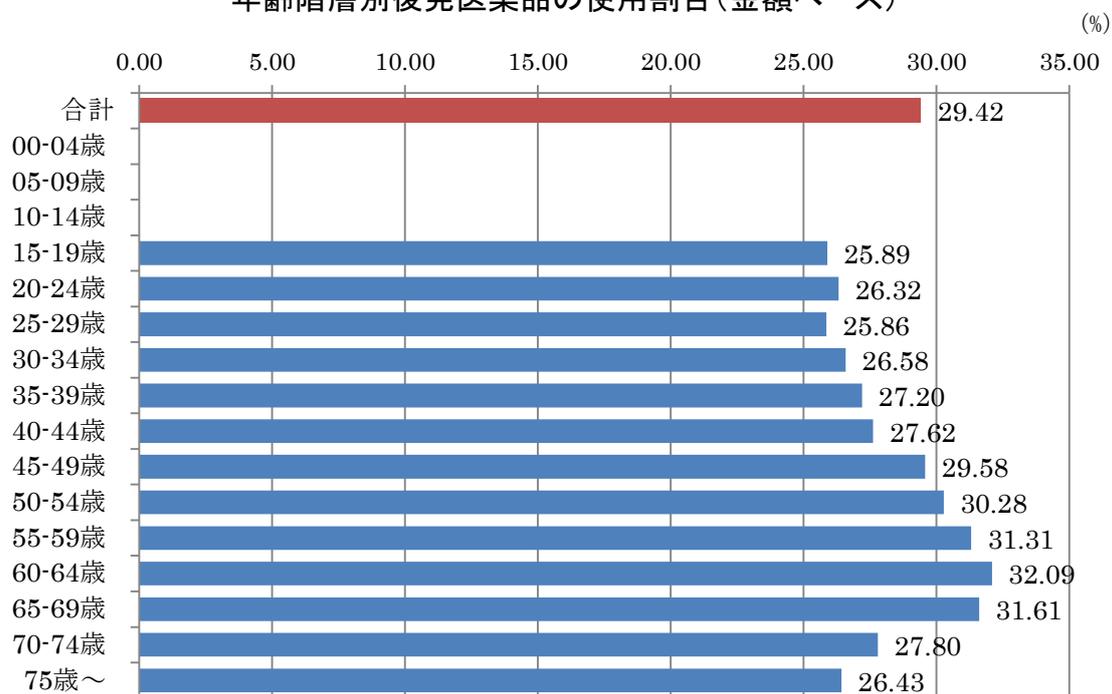
- 年齢階層別に金額ベースの使用割合をみると、合計:25.93%に対して最も高い割合を示しているのは、①60-64 歳:30.32%で、次いで、②55-59 歳:29.84%、③65-69 歳:29.60%となっている。
- 本人・家族別では(p.10)、本人・合計:29.42%、家族・合計:21.94%と、本人のほうが高く、本人では 60-64 歳:32.09%、家族では 40-44 歳:27.32%が最も高い。

【合計】



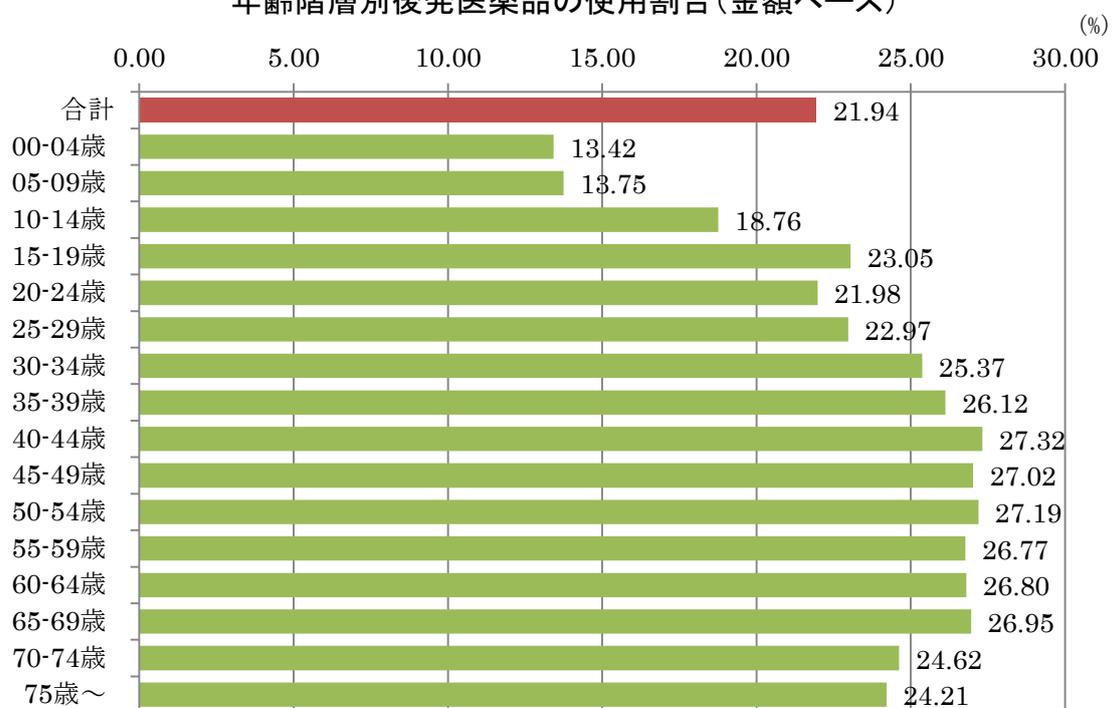
【本人】

年齢階層別後発医薬品の使用割合(金額ベース)



【家族】

年齢階層別後発医薬品の使用割合(金額ベース)

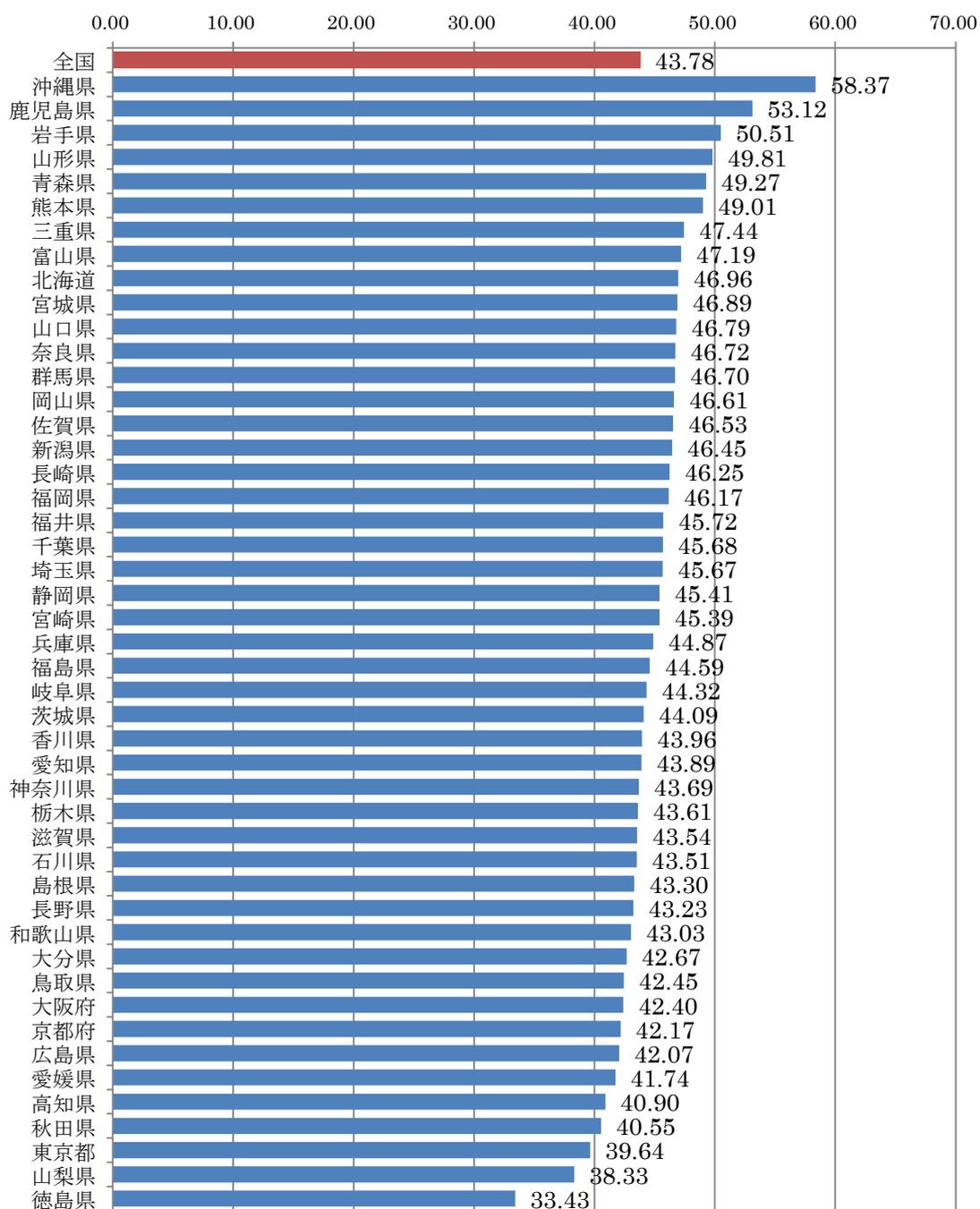


8. 都道府県別³にみた後発医薬品の使用割合

(1) 数量ベース

- 都道府県別に数量ベースの使用割合をみると、全国:43.78%に対して、①沖縄県:58.37%、②鹿児島県:53.12%、岩手県:50.51%の順に高く、逆に低いのは、①徳島県:33.43%、②山梨県:38.33%、③東京都:39.64%となっている。

(%)



³ 調剤薬局所在地を基に集計したものである（次頁も同様）。

(2)金額ベース

- 都道府県別に金額ベースの使用割合をみると、全国:25.93%に対して、①岩手県:33.54%、②鹿児島県:32.73%、③沖縄県:31.50%の順に高く、逆に低いのは、①徳島県:17.13%、②京都府:22.60%、③高知県:22.66%となっている。

